

エゾマツ



NO 74

秋期号

2005年10月28日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目 次

74号 秋期号

特集 <東大演習林自然観察会と大麓山登山>

巻頭言	自然観察会に学ぶ	会長	川端 功治
1、	東京大学北海道演習林・大麓山登山を開催して		宮田 和恵
2、	東大演習林の地図		
3、	東大演習林観察会の様子・解説と写真		
4、	東大演習林宿泊研修に参加して		小栗 法韶
5、	東大演習林「大麓山」登山会に参加して		前仏マサ子
6、	研修講座、地図の読み方		小林 英世

- 以上 特集 -

7、	葉っぱの観察会報告		荻野 裕子
8、	オホーック支部研修会参加報告		田村 允郁
9、	観察会折々		春日 順雄
10、	カタカナの草花		三崎 篤
11、	2005年本州登山紀行		南部 栄一
12、	激動と崩壊の宝の山・磐梯山		成田 伸一

<連載>

13、	やっぱり現地で見たい！(2)		内山 恭子
14、	野幌自然公園の秋		佐々木幸夫

事務局だより

編集後記

自然観察会に学ぶ

会 長 川 端 功 治

美しい自然の恵みに甘えながら春と夏を楽しく過ごしてまいりました。時には大型の台風に不安を覚えたこともありましたが、観察会参加者ともども多くのことを学んだことと思います。

私は5年も前の古い事を思い浮かべております。それは秋の観察会のことですが、落ち葉を拾って、それは何の木の落ち葉か、当てっこしましょうと言うテーマでスタートしましたが「これは何の木の葉ですか」と質問されたので「それは裏が銀白色ですからエゾノキヌヤナギ」と答えたところ「それは何かの間違いでは無いか、この本に記載されていません」というその本は野幌森林公園で発行したガイドブックでした。大沢園地に広く分布する柳が一、二本ならいざ知らず多数分布するのを記載漏れで済まされないので抗議したところ早速調査を担当した方が来園し再調査して「他樹種と混同誤認して済みません」で一件落着。

これとは別の例ですが手稲山の観察会で会友武田洋子さんが北海道には産出しないことになっているフガクス^{*}ムシソウを発見、しかも大型であることを北海道の植物学界の権威梅沢俊氏はその存在を既に認知していたが、これを機会に中央の学会に新種の提案をされた。フガクとは富嶽「富士山」のことで、その山麓のブナの枝に着生するところから命名された。大型で地上に分布すること以外は違いが無かったので、オオを冠してオオフガクスズムシソウと呼ぶことで落着。

観察会でレンジャーを中心に賑やかに、しかも和やかに言葉をやり取りすることは精神健康上極めて好ましいこととされていますが、それが自然科学会にも貢献しているのだという誇りを持ってよい例と思い上記に掲げました。

「チイサイ秋見つけたー」と参加者の子供さんとハシャイでいる間もなく豪華で華やかな紅葉黄葉の秋を迎えます。会友各位の御健闘を祈念致します。

以上

東京大学北海道演習林・大麓山登山を開催して

富良野市 宮田 和恵

8月26日(金)~27日(土)の二日間、富良野市の東京大学北海道演習林・大麓山登山をサークル活動として開催しました。前回、7/1~7/2にもボラレン研修として大麓山登山が開催されましたが、残雪で登山は中止となり今回、演習林教員・宮本義憲先生のご配慮も頂きながら開催の運びとなりました。

台風の影響で予定していた27日朝からの登山は断念せざるを得なくなりましたが、26日の参加者集合と同時に突然でしたが大麓山へ登ることになりました。

好天なら標高1,100m地点迄演習林のマイクロバスで移動し、林道を2km、登山道1km程を歩くのだそうですが、空のご機嫌と諸々の事情でマイクロバスで登山道入り口近くまでの移動となりました。30分程の移動にバスを走らせて下さった宮本先生のハンドルさばき(溝も大きな石ももろともせず避けていた!凄!!)を信頼し、山霧はだかる車窓の景色でしたが、林道沿いの樹木に森林の垂直分布を観ることができました。ケヤマハンノキ・ヤチダモの目立つ溪畔林から徐々に、トドマツとエゾマツ、シナノキなどの針広混交林の目立つ林道になり、更に標高が上がるにつれダケカンバが目立ち、亜高山帯に変わっていくのが解りました。

バスを降り林道を少し歩くと、右方向チシマザサの間に登山道がありました。軽い傾斜の続く登山道には、ウラジロナナカマドの紅い実が可憐に私達を出迎えてくれました。頂上まで、花の時期は終えたもののイソツツジ、シラタマノキ、オオバスノキ等々の下層植生が参加者の目や行動を生き生きとさせていたのは言うまでもありません。イソツツジの葉は、軽く揉むとほんのりと良い香りがし山頂でのひとときのリラクゼーションとなりました。

そうそう、宮本先生が大麓山から持ち帰ったイソツツジをお茶にして飲ませて下さいました。香りが少しきついな?とも思いましたが、その香りのお茶は高貴な飲み物?のようにも感じました。この葉を、お茶として利用していた北方民族は洒落たティータイム?を過ごしていたのだですね。(注・国立公園などでは決して出来ない、ここならではの特別~な体験でした☆)

頂上は小雨で周りの風景は灰色、好天なら前富良野岳や富良野岳、十勝岳、三峯山、上ホロカメツク山、下ホロカメツク山をはじめ、日高連峰の山々ニベソツ山やウベペサンケ山、遠く遠くには雌阿寒、雄阿寒岳も見えるそうです。また、西の方向には芦別岳、夕張岳に至る山並みも見えるのだそうです。残念この上ないのは仕方がないので、天気を恨むことなく天女になった気分にはほんの少し浸り、空に近い場所から深呼吸をしたのは私だけでしょうか。。

のんびりと頂上を満喫する間も無く空模様にも追われながら下山、演習林内の全長930km、密度40.6m/ha以上と林道網が高密度に張り巡らされていると云う林道を、マイクロバスは帰路を走ります。演習林の総面積、22,800ha(道路敷地面積はこの総面積の2~3%)の林内に、平均最大160m位の距離で到達出来るというこの林道網は、木材を安全に経済的に搬出したり、

植林や木を育てる為の下刈、枝打、間伐（間引き）や巡視など、目的や機能に応じて合理的に規格配分され、施業を支えているそうです。林道網を造ることにより森に連続した間隙が出来、それは間伐（間引き）と同じ効果で、道路周辺の樹木に沢山の陽が入り光合成が盛んになります。それによって枝や根が張り、樹木の上長成長も促され、発達した根は傾斜面の土壌をしっかり把持するので、土壌と一体化した樹木の吸水力と保水力は、洪水を引き起こさないように調節機能を発揮するのです。当然、道路周辺には草も沢山生えますが、草も土砂の流れを食い止めたり肥料になったりと一役買っているのです。前回（7/2）、林道を移動する時の車窓から、エゾシカやエゾライチョウの林道利用中？を見ましたが、餌場や移動空間として林道を提供することで、野生動物たちと樹木とが良い形でバランスをとっていくことが出来れば、森林の活力にも繋がっていくのです。（東京大学北海道演習林・2005年度林内見学資料集より抜粋及び参照）

一日目は予定の変更等で慌ただしく過ぎましたが、大麓山へ行く事が出来、ひょっとすると明日も晴れたならまた登れる？な思いを秘め、お部屋で夜中飲み騒ぎ…同室の方に迷惑をかけてしまう私でした。。。反省。。。

二日目は青空も見られましたが、大麓山へは前日の天気の影響で断念せざるをえませんでした。この日は朝から宮本先生に森での危険遭遇とその対処法などと、林分施業法などのお話を頂きました。

演習林の方達はスズメバチに刺された時の為、医療機関で講習を受け自分自身の身を守る注射（講習を受けた本人が自分にしか処置することができない）を携帯しているそうです。この注射はアナフィラキシーショックを起こした際に用いる《自己注射用エピネフリン注射液》です。スズメバチの危険性については改めて記すまでもありませんが、森へ入る私達も万が一に備えて医療機関で講習を受け、携帯したいものです。（ハチに刺され、アナフィラキシーショックが起きた場合、血圧がいきに下がる為この注射を打ちます。下がった血圧は60～160 返上げられるそうです。）ちなみに刺された時の腫れ具合（腫れたから危険、腫れないから安全）には関係無く、刺されたこと自体を「命に関する危険」と捉えなくてははいけない、ともおっしゃっていました。ダニについてもお話を頂きました。ポラレン会員で富良野在住の南部氏（獣医師）から宮本先生がお聞きしたというお話によると、ダニに食いつかれた場合は「消毒用アルコール」をつけるとダニが自分から落ちるそうです。次回は南部先生に詳しくお話をしたいと思います。

東大演習林の森は美しい森とされ人を魅了し、今日では本州からも沢山の人が訪れています。今年、機会に恵まれて演習林の森を歩くようになり、私はその理由が納得出来ました。今まで訪ね歩いた沢山の森や、国立公園のその森達より、東大演習林の森が健やかな美しさで映りました。私の素晴らしいなあと常日頃思っていた森は、南富良野町と富良野市の境界（国道38号線・一応、三の山峠と名前があります。《樹海》の石碑が置かれている場所です。）の地点から眺める、広大な樹海です。数年前の南富良野町への通勤には色々な表情を見せてくれたこの森が私には今も絶品の風景ですが、この森は東大演習林の森で在り、あのどろ亀さんこと高橋延清氏の創った有名な森だったので。（1983年[21世紀に残したい日本の自然100選]に選ばれています）健やかなる森の美しさの「秘密」は、どろ亀さんの提唱した「林分施業法」による森林の取り扱い

にあったのです。木々をすくすくと元気に育て健康な森を作り上げていたのです。過去には演習林も選木の失敗や補助造林の実施をしなかったこと、天然更新の困難な場所で択伐し更新木が育たなかったこと、択伐を強行に行い林相が悪化した、など反省すべき施策があったそうです。

林分施業法に基づいた森林の取り扱いでは、演習林全体を標高によって大きく2つに区分し、択伐の仕方を変え、標高 500m以下の森[里山林]では 10 年毎に成長量に見合った量の 16% を択伐し(伐採する計算上の数字は 18.5%だが木の腐敗、虫の害などで 16%に変わる)、40% を補植(必植)、10%を皆伐します。標高 500mを超える森[奥山林]では気象条件も厳しく里山に比べ樹木の成長が遅い為 20 年毎に 17% (伐採する計算上の数字 19%・上記の理由で 17%に変わる)を択伐しています。

森の状態により分けられた林では、その場所に適した択伐・補植・皆伐が行われているのです。成長の衰えた木を収穫利用し、若い木の成長を促したり、苗木を補植し下刈や枝打、間引きなど人手を加え、森の活力を損なわない林業を演習林では実践しているのです。この事が美しく健康的な森を作っていたのです。(富良野森の教室・倉橋昭夫著・街の木から川へ山へ…参照)

人の手が入らない在りのままな森を人は良い森と評価してしまいがちですが、ひ弱な樹木の多い森と東大演習林の森とを比較してみてください、活力の無い森と有る森、その美しさに違いが見えてきます。余談ですが、美しい漢字は大きな羊と書きますよね、健康で有る事が本来の美しさだと思いませんか。(自分への慰めも含めて…笑)

午後は、富良野市から帯広方面へ向かう途中に在る西達布の演習林の森・神社山へ入りました。この森は富良野地方の里山の代表的な樹木 50 種を観る事ができます。針広混交林・広葉樹林・再生林(二次林～ミスナラ、シラカンバ、ウダイカンバ、シナノキなどの広葉樹)で構成されており、植物の種類が安定している森です。今後富良野にお越しの際にお時間がありましたら是非この森の樹木たちに会う為にプラ～っと気楽に散策して頂けたなら、と思います。

前後してしまいますが、7月1日～2日の研修では、講師にボラレン会員の南部栄一氏と、小林研修部長との地図とコンパスの使い方・簡単なロープの結び方の講習がありました。覚えておきたい必須な内容だっただけに、参加された会員の皆さんはコンパスを地図に合わせ、地図上で目的地へと辿り着いていました。ロープを結ぶ練習も、ん？何かが違う？と何度もやり直したりしながらも、山で使えるロープの結び方を講師のお二人から伝授して頂きました。

7/2の研修では早朝よりマイクロバスで演習林内を案内して頂きました。約70年前に択伐を行って以来、伐採のされていない原生的状態の森・前山保存林では酒井東大演習林長のからも説明を頂いたのですが、幻想的な雰囲気森に迷い込んだ気持ちだけが記憶されてて、お話の内容を忘れてしまいました。すみません。。午後からは見事な倒木更新を見学の後、国道38号線沿いのポン太前の択伐林に向かいました。戦後5回の択伐を実行した天然林で施業の結果、枯れ木や倒木が少なく、広葉樹は真っ直ぐな木が多いなど樹種の多様性は原生林とほとんど変わりがなく、環境保全、森林生産力の最高な姿の天然林だと言うことです。国道沿いの林に大きな文字看板？で(東大演習林択伐林)と有りますので、この道を通られた際には車を止めて是非美し

いこの天然林を眺めて（観て）下さい。その後も選木実習林（地名・平沢）など演習林内を次々と宮本先生に案内して頂き、生きている森を実感しながら林内を後にしました。

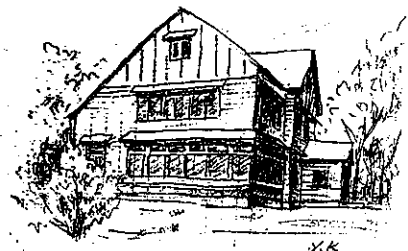
忘れてはいけません。7/2のこの日、演習林内にある標高930m地点の経歳鶴（けいさいづる）では昼食時にとても美味しいお茶を頂きました。このお茶の湯は、移動途中の林道沿いにある湧水地から汲んだ水です。伏流水が湧き出る水は、緑の苔の隙間を陽光に照らされキラキラと輝きながら流れていました。富良野の原始ヶ原には（妖精の泉）がありますが、演習林内のこの湧き水に名前を付けるなら、妖精の水…でしょうか、流れながらキラキラと輝く水の光は森の妖精の遊ぶ姿かも？…と、話は逸れてしまいましたが、昼食時のお茶は酒井演習林長と宮本先生が経歳鶴に到着後すぐに沸かし、煎れて下さったのでした。経歳鶴から眺める景色には、その日登ることの出来なかった大麓山を手前に、富良野岳から向こうに十勝岳連峰、うっすらとは東大雪なども見えていたのでしょうか？美味しいお茶と澄んだ空気、そして山頂からの景色に心もお腹も満腹になりました。

東大演習林では公開事業のひとつとして、創作活動を8月～10月の各日曜に開催しています。東大演習林の森へ入り、絵画・写真・詩・俳句などを創作するものです。先の9月10日には経歳鶴にて富良野市内の茶道家の先生の協力のもと、なんと野立てを本格的に開催したのです。この時の抹茶をたてるのに使われた水は、湧水地の水です。北海道新聞にも写真で広く紹介されたと聞きました。来年はボラレンの皆さんも是非参加してみたいはいかがでしょうか。

8月の大麓山登山開催には演習林の宮本先生をはじめ、演習林庶務・秩父様、岡田様、炊事等でお世話頂いた厨房の皆様、ありがとうございました。

7/2の林内では、演習林長のお連れの女性お二人をお母上様と知らずに私達と別の参加者と思ひ、しばし私の余計な森の案内を加えてしまい、失礼をしてしまいました。こんな思い込みの激しい私の綴ったこの文章も、どこかに誤りがあるかもしれません。（不安。。。）何か誤りに気付かれましたら訂正等の指摘を皆さん宜しくお願いいたします。

8月の私の企画開催に参加して下さいた皆さんには、私の至らない部分ばかりでご迷惑をおかけした事と思ひます。お迎えの約束時間が大幅に遅くなり、参加して頂いたお二人の方に大変ご迷惑をお掛けしてしまいました事、お詫び致します。また、会員以外の参加もお受けしましたところ、お友達、お仲間をお誘いの上参加して頂きありがとうございました。



東京大学北海道演習林観察会 7月2日

地図の解説と写真は田中利男さんからいただきました。

<地図に番号がふられていますが、そこは建物や演習林内の様子と私たちの活動の状況>

- ① 麓郷森林資料館（集合場所）。
- ② 麓郷森林博物館研修生宿泊所の食堂。
- ③ 前山保存林、林相と樹林の説明。
- ④ 前山保存林説明板。
- ⑤ 土取り跡地（道路）の天然更新、有機物を含まない地の芽出し良好、生長（生育）は不良、小さい木（アカエゾマツ、カンバなど）20年程度で30cm程である。
- ⑥ 表土を取り自然林更新。
- ⑦ ⑧ 1981年15号台風跡地。まだ大木材は出来ない。ヨーロッパアカエゾマツが生えた、どうしてかわからない。
- ⑨ 大量湧水地、うまいので飲んでいた。
- ⑩ 930m・経歳鶴山頂、昼食後集合写真を撮る。
- ⑪ 倒木更新です。大木が連続して並んでいた。
- ⑫ ご苦労さまでした、小林部長の挨拶。

地図は頂いた資料の一部です。太い実線は私がつけました。
1/10万 地形図のようです。



倒木更新を見
ながら

平成元年調整

東京大学農学部附属演習林

面積 加



東京大学農学部附属演習林北海道演習林

930m



経歳鶴山頂で記念撮影



小林研修部長の挨拶

東大演習林宿泊研修に参加して

遠軽町 小栗 法韶

ドロ亀先生の名で知られている東大演習林太古の森。ぜひ見学したいと思っていました。でも何か近寄り難いような感じがして今まで実現できずにいました。ですからこの度の研修は興味津津たるものがありました。

日を新たにして再度行われた大麓山登山研修には友人を誘っての参加でした。後日談で二人とも大変よい経験をしたと喜んでおりました。

研修の中身「演習林の木について」。宮本先生の熱のこもった講義とご自分でマイクロバスを運転しながらの現地の説明の熱心さに胸を打つ思いで拝聴しました。演習林の維持管理は、一斉に造林して木材を生産することよりも、駄目になった木を切って、そこを継ぎ接ぎするように新しい木を植えたり、自然に落下する種子を育てたりする自然に近い形で森を維持していると見受けました。再々強調しておられたことは儲けないことはしない、とおっしゃっておられ娑婆臭さを感じました。

「地図とコンパスの使い方」。自分の体験としても、平山の登山新道をつける下見で深い笹の中を、ウロウロただけで頂上に行き着けなかったことが過去にあったので、この技術を取得したいものと思っていたのですが、結果は講師の説明についていけないような程度の理解でした。

「簡単なロープの結び方」。物好きにいろいろなアウトドアに手を出している身として、知っていれば便利と云うより知らなければならぬくらいに思っておるのですが、普段から忘れないように意識的に練習することを怠っているためになかなか身につかないでいる。在り来たりの知識で事を処理してしまっていることにも原因があると自省しています。

大麓山登山は、降雨を予想して到着日に繰り上げて実施したのですが、宮本先生の速度登山のペースには息切れして閉口しました。「地質、森林土壌などについて」の講習が聴けなかったのはチョト残念でした。遠見できたらお花畑にも興味があったのですが――。

今回の研修は、いろいろの事が盛り込まれた中身の濃い企画で、私自身

木を育てる考え方が変わったほどでした。過日、私有地（自然林）の空地の大きい所に、他の樹種が自生する余裕を残してアカエゾマツの苗木をまばらに200本植えました。針広混交樹林地になる事を願っての雨の中での作業でしたが、何か清々しい達成感を味わった一日でした。この方法が正しいのか、技術的に間違っていないのか等、わかりませんが、「07東大演習林宿泊研修記念植林地」と名付けようと思っております。

今回の研修では宮本先生を始めお世話になったスタッフの皆様にお礼申し上げます。

<短信1> 今回の研修会（7月1、2日）では演習林内の「経歳鶴」（標高930m）で茶会が行われました。山の頂きで、地下で歳月をかさねた湧き水での茶会、ととてもすてきです。参加者はその美味しい味が体にしみわたって自然の楽しさを満喫されたことでしょう。

<短信2> これは9月10日、演習林の主催で「経歳鶴」で行われ別のグループの野だての様子。9月11日、道新、朝刊。（写真も大きく掲載されていて様子がよくわかりますが、ここでは略。）

【富良野】富良野市内の東大演習林で10日、野だてが開かれ、参加者たちは楽しいひとときを過ごした。

茶会は、演習林が市内で茶道教室を開く能登友光子（ゆみこ）さんの協力を得て、初めて開催した。

場所は演習林内の「経歳鶴（けいさいづる）」（標高930m）と呼ばれる山の頂上。

絶景に囲まれ
結構なお点前

富良野 演習林で野だて

会場は野だて用の赤い傘が取り付けられ、お茶会のムード満点。参加者たちは雄大なパノラマを堪能しながら、演習林からわき出る水を使ってたてた抹茶を味わった。

酒井秀夫演習林長（53）は「水、空気、景色の良い場所で本場の日本茶を楽しめるのはぜひいたくなこと。また開催したい」と話していた。

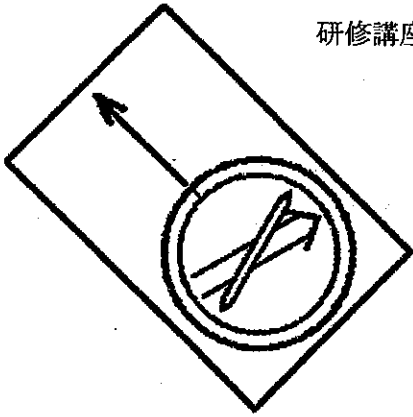
（根岸寛子）

東大演習林「大麓山」登山会に参加して

前佛マサ子

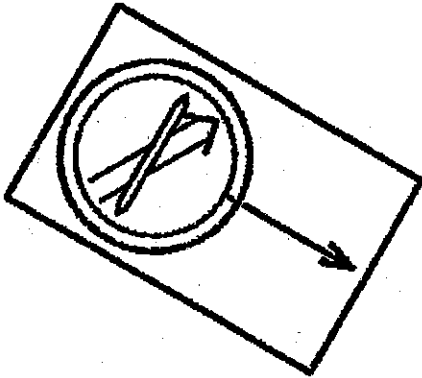
8月26日～27日の登山会に、参加しました。台風の接近を心配しながらも、26日は都合で夕方に到着。楽しみにしていた登山会は27日の予定でしたので、翌日の天候ばかりを気にしていました。ところが、予定は変更されて登山は26日に終了していました。それでも、天気が回復すれば翌日の観察会はあるだろうと思い就寝。翌朝は願いが通じたのか、まずまずの天候でした。午前中は麓郷森林資料館で材鑑標本の展示を見学した後、演習林やスズメバチ等について講習があり、熊よりもハチで命をおとす危険性の高さを納得。午後はいよいよ登山と期待していましたが、結局登山は中止。その代わり神社山なるところへ案内して頂けることになりました。山に向かう途中、東大の先生からぜひ見せたいものがあるとのことで施設内で笹や鹿の爪入りの熊の糞を観察し、ベジタリアンの熊が鹿の味を覚えたことの危険について説明を受けました。その後、神社ならぬお寺の裏にある神社山の登山口へ到着。皆で東京大学と名の入ったヘルメットをかぶりゲートを通ると登山道にはウツボグサが満開でした。道の脇には少々季節はずれの感のある食用可能なワラビや、頭上にはコクワやマタタビもあり、観察以外のことに関心がいったのは私だけだったのでしょうか。それにしても、私以外のレンジャーの方々の知識の豊富さにはいつものことながら敬服してしまいます。山野を歩き回るのが好きで会員になった私は他のレンジャーの方の説明を聞きながら観察できるだけで、とても嬉しく思いました。わが町の千歳にも神社山と呼ばれている青葉公園があります。野球場やサッカー場もありますが、自然がそのまま残っているエリアがかなりあり、バードウォッチングにも適した所です。私は野鳥の観察が大好きなのでよく出かける場所です。

東大演習林の先生、富良野の宮田さん、大変お世話になりました。今回、登山はかないませんでしたが、楽しい二日間でした。チャンスがあれば、大麓山にはぜひ登りたいと思っています。



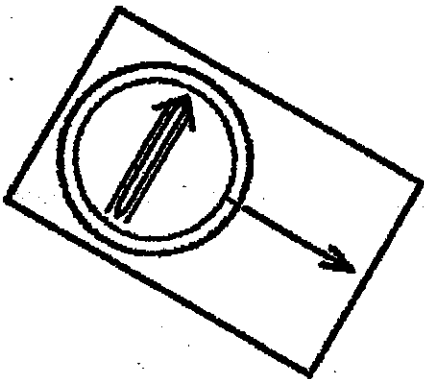
[0] 初期状態

今はコンパスをただ置いてある状態です。磁針が斜め上に向いています。磁針はコンパスをどの方向に向けても、常に北を指示します。一連の説明では磁北は画面上から 30° という事にします。



[1] ベースの矢印を好きな方位に向ける

さて、任意の方位を調べてみましょう。ベースの矢印を好きな方位に向けて下さい。例えば目の前にある山の方でもいいです



[2] リングの矢印を磁北に合わせる

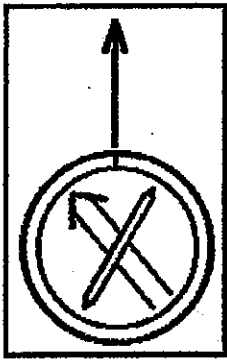
次にベースの矢印の向きをそのまま動かさない様にして、リングを回してリングの矢印を磁針の北に合せます。

そしてリングの方位の度数目盛を読みます。度数線(ベースの矢印の根元)と重なった方位がベースの矢印の方位です。

図では磁北に対してベースの矢印は 90° (東)になります。

これでベースの矢印を向ければどんな方位でも分かりますね

<広報部から、レジメが多く
あるので連載で>

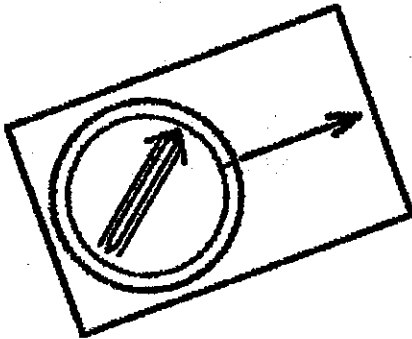


[使い方-2 あらかじめ設定した方位を示す。]

[1] リングを設定する

例えば40° の方位にベースの矢印を向けたいとします。リングを回して、度数目盛の40° を度数線に持って来て下さい。

[2] リングの矢印を磁北に合わせる



リングとベースの位置関係は動かさずに、ベースごと回します。そしてリングの矢印を磁北に合せます。この時、ベースの矢印が40° の方位です。

これは例えば40° の方位に進み続けたい時等に有効です。一回設定すればコンパスをポケットにしまってもリングがずれる事はめったにありません。しばらく歩いた後、ポケットからコンパスを取り出してリングの矢印を磁北に合せばすぐに40° の方位が分かります

[使い方-1 任意の方位を示す。]も[使い方-2 あらかじめ設定した方位を示す。]も最終的には

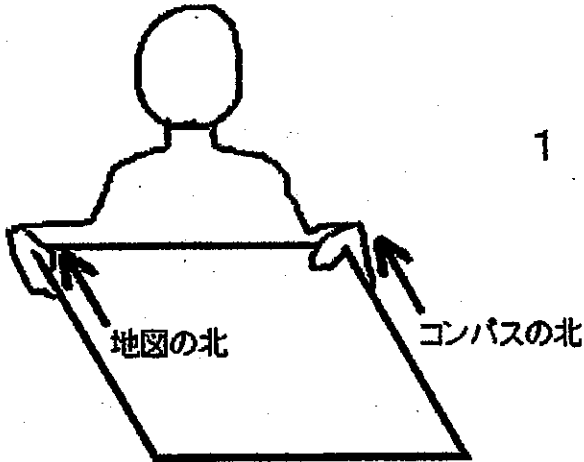
リングの矢印を磁北に合わせる

リングの度数目盛を度数線で読む

という点は共通しています。

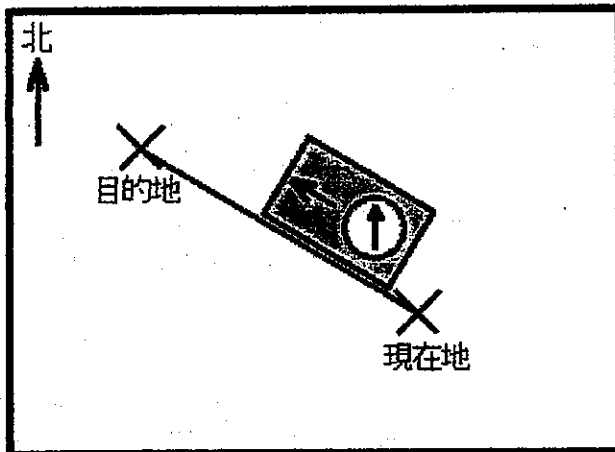
コンパスの機能はたったこれだけですが、地図と組み合わせると威力を発揮します

ここでは基本的な地図とコンパスの使い方として次の事項を説明します。
現在地が分っている場合 地図上の目的地への方位を調べる
現在地が分っている場合 現在地から見える地点を調べる
現在地が分らない場合 周囲の地形から現在地を割出す



1 地図上の目的地への方位を調べる

まず地図の"北"を合せます。通常、
地図の上が北になっています。
コンパスの磁針に合わせて地図の上
を北に向けます



そして、地図上の現在地から目
的地へコンパスのベースの矢印
を向けます。道が曲がっている時
は分割して方向を決めた方がい
いでしょう。これが目的地への方
位です。

この時コンパス編の説明の様に
リングの矢印と磁針を合せて下さ
い。リングの矢印は北に向いてい
ますね。

コンパスの磁針が基準になりま
す。これを基準にして"地図の北"
と、"コンパスのリングの矢印"を
合せます

結局、合せるのは次の事項です。
コンパスの磁針に地図の北を合せる。
コンパスの磁針にリングの矢印に合せる。
地図上の現在地から目的地へコンパスのベースの矢印を向ける。
進むべき方位が分れば、道が二又になっていても迷う事はありませんね。
周囲の様子と地図を比べてみましょう。どの方向の道へ行くべきか、ここ
まで来た道は間違っていないかったか、等を確認してみましょう

2 現在地から見える地点を調べる

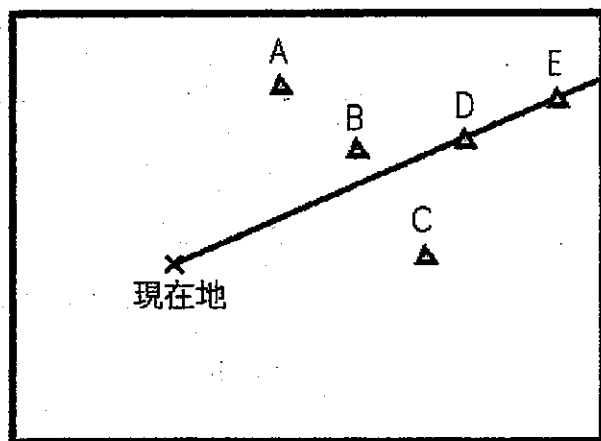


「あそこに見える山は何という名だろう？」
山に行けば誰も思う事ですね。地図とコンパスを使って調べてみましょう



まず、コンパスのベースの矢印を目的の山に向けます。
磁針とリングを合せて、目的の山の方位を出します。
これが現在地から目的の山への方位です。

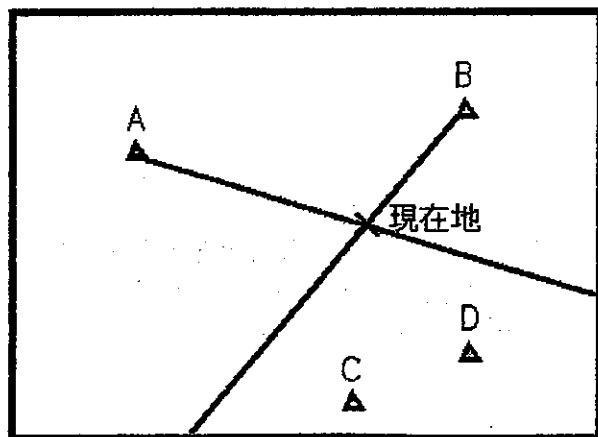
地図上の現在地からこの方位への軸線上に目的の山がある事になります。
右の図の青の軸線が現在地から目的の山への方位とします。
この時、前述のように地図の北を合せておきます。
右の図ではDとEの山が軸線上にあります。
1地点から方位を測定して距離を知る事はできません。(2地点からの測定なら、三角形を描いて距離を知る事ができる)



方位は分る(青の軸線上のどこか)が、目的の山はDかEかどちらでしょう？
区別する材料は、山の高さ、山の形、感覚的な距離、等です。DがEより高ければEは隠れて見えません。また、山の地形が丸っこいか、尖っているか、等も判断材料になります

3 周囲の地形から現在地を割出す

分からなくなった現在地を割出す事は簡単ではありません。およその見当をつけましょう。
例えば、どこの尾根上か、どの山のどっち側か、どの道上か、等です。周囲の様子が分らなければ、調べようがありません。そのため、樹林帯で見通しが効かない、ガスっている時、等の場合はこの方法が使えません。目印になるような物(尾根、ピーク、等)を探しましょう。



右の図の場合、AとBの山が現在地から見えるとします。そして、どの方位に見えるかコンパスで測ります。
この方位の軸線上に現在地があるという事です。AとBへの軸線が交差する所が現在地となります。
目印になる山等が1点しかない場合でも、どの尾根上か分れば現在地を割出す事ができます。

「葉っぱの観察会」報告

荻野 裕子

7月10日(日)、午前10時から午後2時30分まで開催された北海道野幌森林公園事務所主催の「葉っぱの観察会」に北海道ボランティア・レンジャー協議会会員7名が自然解説の協力を致しました。

観 察 コース 野幌森林公園自然ふれあい交流館～大沢コース～桂コース
～大沢園地(昼食)～自然ふれあい交流館

天 気 曇り後雨(昼食後)

参 加 者 30人(内小学生2名)

観察された植物 キツネノボタン、ツルアジサイ、ヒメヘビイチゴ、エノイヌ
ゴマ、マイヅルソウ(果実)、エンレイソウ(果実)など

出 現した野鳥 ヤマガラ、クマガラ、ヤブサメ、キビタキ、ホオジロなど

観察された昆虫 シデムシの仲間、ムネアカオオアリ、ザトウムシなど

今回の「葉っぱの観察会」に向け当日実践できるプログラム作りを事前に行われたボラレン実践セミナーで受講者は丸山博子先生ご指導のもと体験致しました。

「葉っぱの観察会」では実践セミナー受講者で作った5種類のプログラムの中からテーマ「私の好きな葉を探そう」は3グループで実践され、「地面の葉をめくっていこう」と「葉を分解する虫になってみよう」は参加者全員を対象に昼食後、休息場大沢園地で濱本真琴普及啓発員に助けて頂き実践しました。

今回の実践セミナーで作ったプログラム実践の試みは「葉っぱの観察会」参加者には好評のようでした。特に休息場での参加者全員対象プログラム実践は今後も違う内容を考え実施したいとの意見が観察会終了後のボラレン反省会に出ました。また「葉っぱの観察会」前日の下見後に小林英世研修部長講師による「葉っぱにまつわるエトセトラ」研修会が実施されましたが、この様に観察会テーマに沿った下見後の勉強会で私達が準備を十分に備える事も今年度からの新しい試みです。

今回の「葉っぱの観察会」では私達ボラレンの創意工夫が今後も益々必要である事を感じました。

オホーツク支部研修会参加報告

札幌市東区 田村 允 郁

例年、オホーツク支部の研修会は9月に行われていますが、今年も9月24日～25日の宿泊研修の案内が事務局に届きました。オホーツク支部の研修会に参加して、支部の皆さんと交流を深めようと思い参加することにしました。札幌から北見市まで車でおよそ5時間余、秋の気配を感じながら車を走らせました。

研修並びに宿泊会場は北見市自然休養林センター（北見市若松651）で、すぐ目の前がスキー場になっています。支部代表の和泉さん、事務局の法師人さん、の話によると、参加を予定していた方に急用が入り欠席者が増えてしまったとのことでしたが、こじんまりと雰囲気の中で、1日目の研修に入りました。

研修に先立ち、初代の支部代表を務められ、先般亡くなられた故高橋義治氏の追悼と、出席頂いた奥様に感謝状が贈られました。

研修は、伊藤公平氏の演題「動植物にかかわるアイヌ語地名」の講演を中心に進められました。伊藤公平氏は北見市で「麦の風文庫」を主宰していて、この地で文化活動をすすめてられる方です。講演の内容は、アイヌについての概括ではじまりました。アイヌ語は文法的には日本語に似ているとのことですが、人格を含む語の構では著しく異なっている事。例えば、日本語では「この器をあげる」と言えば、言葉のやりとり上、誰から誰にあげるかは、それとなくわかるが、アイヌ語では「(私の)この器を(私は)(あなたに)あげる」となる、など具体的な話をさせていただきました。

アイヌ語の地名については、北見、網走地方名について、地形によるタイプ、信仰にかかわるタイプ、動植物の採取にかかわるタイプなど、現在の地名と比較しながら多くの文献・史料を示されながらお話をさせていただきました。

講演の後、夕食を兼ねた懇親会がもたれました。伊藤公平氏から講演の中で聞けなかった、いろいろな話題で和やかな時間が過ぎていきました。

翌日25日は仁頃山登山研修の日程が組まれていました。仁頃山(829m)登山口は北見市相内市街から富里湖(ダム)キャンプ場を目指していきます。

仁頃山は北見市の最高峰で1等3角点の山です。自然が豊かで北見市民はもとより周辺の地域の人々に親しまれてきた山で、最近は特に人気上昇中の山であるとのこと。その理由は、この山の愛好者で作っている「仁頃山愛好会」によって、いくつ

もの登山コースが整備され、いろいろな登山コースを選べることにあつたようです。

今回は、距離が一番短い「作業道コース」を登ることにしました。霧雨の天気でしたが登山開始9時15分には雨もやんでいました。

登山口には豊かな水量の沢が流れていました。登り始めから結構な急登で、心を引き締め登ることにします。登山道脇にはさまざまな広葉樹が見られたり豊かな林床植物が広がっています。山の名の由来は、アイヌ語で「ニ・コル・ベツ」（木を・持つ・川）とのこと。なるほど、と納得しながら登っていきます。

コースには、合目の標識がきちんと設置され、要所要所には、休憩場所があつたり、テントの小屋まであります。また、植物観察をしながら登れるように、いたるところに植物名を記した表示があります。

7合目になると、登りも緩やかになります。10時45分頂上に到着。真下に登山口そばの富里ダムとその先に北見市街が望めます。天気よければオホーツク海や阿寒方面の山々が見えるとのことですが、今回は雲のなかでした。早めの昼食をとり、下山することにしました。途中、札幌からきたという結構な人数のグループに出会いました。この山の人気を垣間見た気がしました。下りは1時間弱で登山口に到着です。

登山口には大きな鏡が設置されています。1000mに満たない山ですが、満足した顔がそこに映っていました。

2日間の研修会を企画した、オホーツク支部の皆さんに感謝しながら別れを告げ、紅葉に色づく石北峠を越え札幌に戻つたのでした。

仁頃山登山で気のついた動植物

〔木 本〕

- ・ウリノキ ・ホザキナナカマド ・オオバスノキ ・エゾヒョウタンボク
- ・ハナヒリノキ ・ホザキシモツケ ・エビガライチゴ

〔草 本（花をつけていたもの）〕

- ・ヤマハハコ ・アキノキリンソウ ・ミソガワソウ ・ヤナギラン
- ・エゾゴマナ ・ウツボグサ ・コウゾリナ ・アカソ ・ツルリンドウ
- ・ナガボノシロワレモコウ ・エゾトリカブト ・クサノオ ・アカソ
- ・エゾイラクサ ・ムカゴイラクサ ・ホソバイラクサ ・ハエドクソウ

〔野 鳥〕

- ・シジュウカラ ・ハシブトガラ ・ヤマガラ ・ゴジュウカラ ・ミヤマカケス
- ・キジバト ・ヒヨドリ ・

観察会折々

春日順雄

沢山の失敗

9月11日(日) 小樽支部 塩谷丸山～遠藤山～天狗山でのこと

1. 線路の近くにエノコログサが沢山。「これはエノコログサ、こちらはキンエノコロ。」と、説明しました。ところが、後で考えてみると。エノコログサは穂の垂れ下がっている様子や大きさからアキノエノコログサであつたに違いありません。
2. 沢山のゲンノショウコやツユクサが咲いていました。ルーペで、その美しさを観察。「綺麗！綺麗！」の声イッパイでした。ところが、ツユクサのオシベ6本の中味の説明が出来ませんでした。6本のうち4本は飾りオシベだと分かつたのは後日でした。
3. 塩谷丸山の頂上から遠藤山への下りでエゾシオガマに出会いました。ところが、何とも不覚でした。シオガマギクと言ってしまいました。誤りに気づいたのは後日でした。図鑑は持参していたのに出さなかつたのが不覚でした。

10月4日(火) 小樽支部 恵庭岳でのこと

1. キヌタソウがイッパイありました。参加者の口からは「この葉の特徴は3本の脈が目立つな。」という声も出ていました。後日、図鑑で調べたら、キヌタソウは北海道に分布していないんですね。目立つ3本の脈の事も合わせてミヤマキヌタソウと説明すべきでした。北原さんの用意して下さった資料には、ミヤマキヌタソウとありました。よく確認しなかつたのがいけなかつた。
2. 下山途中、ヒロハツリバナに出会いました。裂果した様子を図鑑で確認したのはよし。その隣の葉を見て北原さんが「これは何かな。」、私は「ハウチハカエデじゃないかな。」と、応じました。「ハウチワカエデとも違うな。」と、北原さん。後日、ミネカエデらしいと分かつたのですが、細部にまで観察の目を向けない自分に気づきました。

嬉しかったこと

9月27日(火) 江別第二小学校3年生の総合学習 野幌原始林

私なりにテーマを持って臨んだのが良かったように思いました。①植物の冬支度、②種子を散らばらせる作戦の二つでした。ポケットにしおぼせたものは、虫眼鏡・ルーペ・ホウノキの実・ハルニレの種子。

イキのいい3年生でした。落葉広葉樹が葉を落とすのも冬支度。大雪や強風から身を守る方法。極めていい返事が返ってきましたが、まだ、落葉の現象がないだけに言葉だけのやりとりでした。理解の程度はどうだったかな。

佳境に入ったのはキンミズヒキ、ウマノミツバ、ノブキなどの種子の観察に入ってからです。道路の脇を歩くだけで彼らのズボンにはひっつき虫がイッパイ。手にとってルーペで見る。毛がある。毛の先は鉤のように曲がっている。野生の動物や人間の衣服にくっついて遠くに運んで貰う大作戦は楽しく遊びながら実感してくれたと思いました。さて、ここで私は大きな虫眼鏡を持ち込みましたが、毛の先の鉤型を見るには倍率が低すぎて駄目でした。やはり、ルーペが良い。

道路の両側にはキツリフネがイッパイ。丁度、種子が熟していました。学校ではハウセンカを育てているそうです。キツリフネの実に触れてみました。パッと、種子が周囲に飛び散りました。「ハウセンカと同じだ。」の声。盛り上がりました。これも種子をまき散らす生き残り作戦。遊びながら実感してもらえたようです。

今度は、ハウノキの実の出番です。大沢園地を過ぎてからハウノキを見つけました。樹上に私の持っているものと同じものを発見。子どもたちの目は早いです。次々に見つけます。ここで、鳥に食べられて運ばれる種子の話。鳥に食べられてウンチとなつてばらまかれないと発芽しない種子の話をしましたが、分かってくれたかな。

次は、ハルニレの種子の出番です。手からばらまくと風に乗って飛んでいきます。種子のばらまき作戦の仕上げは、風に乗る話で締めくくりました。子どもたちの口から、タンポポの種子が飛んでいく話も出ました。

くっついてばらまかれる。種子をはじいてばらまく。鳥に食べられてばらまかれる。風に乗ってばらまかれる。みんな分かったかな。

楽しく過ごしているうちにすっかり時間がたってしまいました。入り口まで0.9キロの表示を見つけたのは、11時25分。大いに慌てました。それからというもの、私が「イチ、ニ」というと、子どもが「イチ、ニ」と応ずる。私が「ファイト、ファイト」というと、子どもたちが「ファイト、ファイト」と応じる。子どもたちの元気な声が森中に響きます。それが良かったのでしょう、数人の子はへこたれたものの大多数はニッコニコの大元気。0.9キロを10分の快ペースで歩き通しました。子どもたちの明るさと頑張りに万歳でした。

カタカナの草花

三崎 篤

ここ数年、線路わきに、見慣れない植物が急激に増えてきた。気にはしていたが、横着し、図鑑で調べもせずにいた。

7月、鶴川での観察会に参加したおりそれを目にし、仲間のレンジャーに教えてもらった。ピロードモウズイカという植物でした。

私にとって、どうも「カナ」は苦手。一字飛ばしても一字間違えてもとんでないことになる、ただひたすらに暗記するのみであるが、最近はこれが苦痛になってきました。

カタカナで書かれた文章での誤読例として、「カネオクレタノム…金送れ、頼む」を「金をくれた、飲む」と誤読し「誰がくれた、あまり飲むな」と言う返信が届いたという話は有名です。また、「キョウハイシャヘイツタ」を「今日は医者へ行った」とも、「今日歯医者へ行った」とも読めるわけで、そこでカナの替わりに漢字を入れることで見事誤読を防ぐことが出来ます。

冒頭の「ピロードモウズイカ」も漢字で「天鷲絨毛蕊花」と書かれるとなんとなくイメージがわいてきます。天鷲絨に触れたような葉、雄蕊に細かい毛が密生している様、実物と照らし合わせるとぴったりした名前だと納得できます。覚えの悪い私ですが、当分の間は記憶装置にとどめ置かれてくれるでしょう。

漢字には不思議な力があり一字、一字に意味があり、それを見るだけで意味を伝えることが出来る「表意文字」です、中国語が解らなくとも漢字に表されると、なんとなく意味が理解できるような気がします。

カタカナやひらがな、ローマ字のように一字一字には意味がなく、単に発音を表す機能しかない表音文字と、そこが異なる点ではないでしょうか。したがって、カタカナ名のほかに漢字名も付記されていると、漢字の意味からイメージがわきなんとなく観察のポイントが見えてくる感じがします。

誰が命名したのか経子の尻拭い、尻糞蔓、犬の陰囊など気の毒な名の草花がありますが、実物と照らし合わせるとなるほど命名者の意図が分かります。でも、品位に欠けかわいそうなかんじがしますね。

日本一長い植物名「リュウグノオトヒメノモトユイノキリハズシ」(アマモの別名)も、「竜宮の乙姫の元結の切り外し」とくれば、元結から解きはずされた乙姫様の長い髪を海中で、ゆらゆらとなびかせているイメージ、当にぴったりではありませんか。

ガーデニングブームでさまざまな草花がカタカナ名で売られています。覚えようとしますがすぐ忘れてしまいます。国内で売られるわけですから、せめて彼ら、彼女たちに、ふさわしい漢名が付記されていると、少しは、覚えやすくなるのではないのでしょうか。

2005年 本州登山紀行 富良野市 南部 栄一

7月23日より8月6日まで約半月間上記の山々の登山をして来たのでその報告をします。毎年梅雨明けのこの時期に出かけるのですが、自分は原則として山小屋に宿泊する以外は車中泊かテント泊で経費の節減に努めています。8月24日フェリーで新潟港到着。すぐ高速道に乗り「梓川 PA」で車中泊[自分は車中泊は安全で設備の良いPA利用がほとんどです] 25日台風8号が東海地方直撃とのことながら朝から晴天 足慣らしも兼ねて中里介山の小説「大菩薩峠」で有名な大菩薩嶺「2057m」に登る。往復4時間でした。花はマツムシソウ、ヤナギラン、ホタルブクロ、ニョウホウチドリ トモエシオガマ、レンゲツツジ、ウスユキソウが見られた。午後より南アルプス南部の登山口樫島へ向かうも夕方より風雨強まる。それでもリムジンバスで樫島ロッジに向かい26日は終日ここで休養を取る。後で考えると今回の山行で唯一の休養日でした。

27日～31日にかけての5日間で標識のある山で16山、連日8～13時間の山歩き、毎日朝4～5時出立の日々でした。この内3000m級の山を挙げると、丸山、悪沢岳、中岳、前岳、小赤石岳、赤石岳、聖岳の5山あり、更に日本百名山には悪沢岳、赤石岳、

聖岳、光岳が入ってます。この山塊の特徴は北海道で言うと日高の山々の様な感じで奥行きが深く登山口からのアプローチが長く、また天気さえ良ければ何処からでも何時でも富士山を眺めることが出来ること、更にどの山に挑戦しても最低二泊は覚悟しなければならないことより人の入り込みも少なく登山道なども荒廃の跡などほとんどなく、高山植物の植生も維持されており、山小屋でも余裕をもつてのんびりと過ごすことが出来る。例えば3120mの赤石岳山頂横の避難小屋の管理人が夜、満天の星を見ながら「星観察会」を主催してくれるなど日本中ほかの山小屋では考えられません。更にここまで来て悪戯する人は無いのか雷鳥の親子連れが登山道を歩いている様子なども見る事ができます。花もシナノキンバイ、マツムシソウ、サクラソウ、ハクサンフウロ、チシマギキョウ、テガタチドリ、チョウノスケソウ、タカネナデシコ、ミヤマオダマキ、ミネウスユキソウ、オヤマリンドウ、ミヤマシオガマ、ウサギギク等が見ることが出来ました。次に自分にとって今年目標でもあった日本百名山の最後の山である「光岳」「テカリダケと読む」についてですがこの山は日本アルプスの最南端にあり、光石と呼ばれる石灰岩質の岩峰があり白く光っていることから命名されたようです

展望のない樹林を歩きあと30分位で山頂と言う頃には自分の約40年余りの登山歴が走馬灯のように次々と思い出され、山頂標識が見えてからは一步一步かみしめるようにたどり着きそつと標識をなでまわさせてもらいました。そして次の山人生は何を目標とするか?等と考えてました。後で山小屋の人に聞いたところ、この山で百名山達成の人は多いのですが、大騒ぎする人と自分のように静かにしんみりする人半々だそうです。山頂での記念写真あるのですがこれは自分と勝手にしぶしぶながら認めてくれた妻の宝としておきたいので、その辺の事情を話して発行してくれた赤石避難小屋の証明を皆さんへもお見せしたいと思ってます。更に下山の最後の難所として全長182mの畑薙大吊橋もいい思い出です。8月1日、2日は予備日としていたのですが晴天でしたので、甲武信岳「2457m」、金峰山「2598m」をそれぞれピストン登山しました。8月3日、4日は八ヶ岳を硫黄岳、横岳、赤岳、中岳、阿弥陀岳と周回しました。この山塊は岩場、岩稜帯、ザレ場が多く、梯子場、鎖場の連続で、更に人気の山なので人も多く落石に注意しながらの緊張と慎重さで肉体より精神的疲れも大きかったです。花は岩稜にも係わらず多く、コマクサ、ミヤマキンバイ、ウルップソウ

オヤマノエンドウなどが咲き乱れてました。また赤岳山頂小屋に泊まりましたが予約のあるなしにかかわらず入れるので、正に寝返りも難しいほどの混雑ぶりでした。

8月5日 PM11時40分新潟発フェリーに乗り北海道へ帰る日ですが、晴天でもあり何処か寄り道でもと地図と相談、草津白根山「本白根山」「2171m」へ向かいました。「高速上越道」から有料道路、292号線を経由し「白根レストハウス」到着。ここより樹林帯をゴゼンタチバナ、タケシマラン、カタバミ、ツマトリソウ、を眺めながら登ると、まもなく深田久弥が「古代ローマの円形劇場」と言った火口にでる。ここのコマクサとヒメシャジンの花畑は見事である。尾根を登り返すと「白根山最高地点」に出る。「レストハウス」に戻り「湯釜」を見て、「ロマンチック街道」を通り「高速関越道」に出る。これが今年の本州登山紀行です。来年からは「花の山」を訪ね歩きたいと思っています。最後にここ数年本州に行きついで気付いたことを～①道端に空缶、空瓶、ビニールに入ったゴミが見られない②国道、高速道などで譲り合いの気持が伝わって来る。③登山口、山小屋のトイレが清潔である。また有料であるがほとんどの人が払っている。以上北海道と違う感じがしました。

百名山達成証明書

岳人 南部 栄一

貴方は赤石岳に登頂し日本百名山登山を完了されました。

長大なる日本百名山の登頂意欲とともに、その
靱なる体力を賞讃し、証明書をお渡しします。

平成17年7月28日 赤石岳遊覧小屋管理
棟師 菅



激動と崩壊と宝の山磐梯山

成 田 伸 一

磐梯山（会津嶺 会津富士 大磐梯山）福島県耶麻郡猪苗代町と磐梯町、北塩原村との境、JR磐越西線猪苗代駅の北西7Km。

磐梯山（大磐梯山 1, 819m）を主峰に、赤埴山、櫛ヶ峰（岳）の3峰より成っている。新第三紀安山岩からなる円錐台形の成層火山であり、櫛ヶ峰との間の沼の平に旧火口がある。1888年（明治21年）に大爆発し、北に開くU字形の爆裂火口を形成し、その結果2峰の山容となり、崩落した土石は長瀬川を堰止め、檜原湖、小野川湖、秋元湖、五色沼、曾原湖を生んだ。山体西側の雄国沼はカルデラ湖。

南側を表磐梯と呼ばれ、淡水湖として日本第2位の面積をもつ猪苗代湖がある。

北側は、裏磐梯または磐梯高原と呼ばれ、表磐梯の優雅な山容に比較し、爆発によって形づくられた野生的な魅力を有し、磐梯朝日国立公園の中心である。

山域一帯は野鳥の棲息地であり、日本三大鳥類棲息地とされている。

沼や湿原には、トキソウ、ホロムイイチゴ、モウセンゴケ、ミズバショウ、等の植物がある。中でもこの山固有種の、バンダイクワガタ（ゴマノハグサ科）がある。

この山は、奈良時代より会津地方の象徴であり、高く天に通じる「石の梯」（いしのはし、磐梯）と仰かれ、この山に宿る神霊を磐梯神（いわはしがみ）とし、山頂に祀った。

平安時代には、弘法大師空海の跡をうけた徳一により磐梯山恵日寺が創られ、鎌倉時代以降は、磐梯山修験が盛んになった信仰の山でもある。

古くから、奥羽地方の要地であった為、会津黒川城の蘆名氏と米沢の伊達氏との間の決戦が山麓すり上原で行われ、勝った伊達政宗もその翌年豊臣秀吉によって黒川城を追れた歴史にも登場。山頂近くには中の湯、山麓周辺には川上、押立（おったて）温泉がある。

登山コースは、猪苗代口、渋谷口、大寺口があり、観光道路も整備された、ゴールドライン、磐梯吾妻レークライン等の有料道路があり、吾妻山と直結し観光地化が進んでいる。

深田久弥氏の「日本百名山」に磐梯山の事は噴火の説明より書き出している。

磐梯山は死者数500人近くを出した明治以降最大の火山災害をもたらした火山である。

この、噴火についてはよく知られている様だが、事実とは相違があります。

深田久弥氏も「その山形は吹っ飛び、溶岩は北に向かって流れた」と書いているます。

然し、実際には水蒸気爆発だけで溶岩は流出せず、山頂周辺にはスコリヤも見当たらない。。

この状況より考えられるのは、山体は吹っ飛ばずに、大きく崩れた結果が現在の山容となっていると推定するのが正しいと思います。

一部の研究者は、一気に崩壊したのではなく、少なくとも若干の時間経過の後に段階的に崩れたと唱えて居る様です。

新潟県の僧侶 鶴巻浄賢師は、旧中ノ湯温泉で噴火に遭遇し噴石で負傷しつつも、奇跡的に生還して、その証言で「破裂」は三回あったと、多段階の崩壊を証言しています。

磐梯山は南側からの山容は、成層火山の特徴を良く表わし会津富士と呼称され裾野を引き、万葉集にもよく使われる「あしひきの．．」の表現の良く似合い、いかにも宝の山らしく優雅にそびえ立っています。

宝の山とは、昔は米が租税対象であり不良凶作年にあっても一定量の供出が、義務付なされ農民は、自分達の食糧分をも供出させられていた。現在の納税システムも同様か．．

磐梯山を始め、この地方周辺の山々には、イネ科の笹が生茂りその実を米の代りに利用した歴史があります。

俗に、「笹は六十年に一度花が咲く」（実がなる）といわれています。

この「六十」という数字は、中国より渡来の「十干 十二支」の最小公倍数が「六十」でありこれを引用して「笹は六十年に一度花が咲く」の所以と想って居ります。

また、米は供出をしたり、神前に供えるにあたっては「供米」（くまい）と呼ばれる所から、笹の実のなる笹の名称もありそう．．（クマイササ：北海道 シナノササ：長野県）

民謡小原節の一節に、「会津磐梯山は宝の山よ 笹に黄金がまた実り下る」とありこの地方の人々にとって磐梯山は文字通り、凶作時の宝の山であつたに相違なく正に生命線でもあつたであろう。

北側よりの眺望は、その姿形は一変して荒々しいものとなる。

明治噴火で崩れた跡の爆裂火口が赤い岩肌をみせ、災いの山の実体を見せる。

大きく裂けた様に崩れたのは小磐梯山で、主峰大磐梯山、櫛ヶ峰、赤埴山と共に、旧火口、沼ノ平を囲むピークの一つである。

崩落により発生した流れ山が作り出した湖沼群は、哀磐梯の景観（観光の目玉）となり、その名称も磐梯高原と改められ大観光地になり、その代表地が、それぞれ異なる色を呈する五色沼湖沼群は岩屑なだれの作った流れ山の間点に点在している。

流れ山とは、崩落した土砂が盛り上ってできた、10m～20mの山である。

流れ山が発生した時には人の集落も埋まった所もあった様である。

山の中腹の火口原に銅沼（あかぬま）があり、五色沼湖沼群は此処から流下する酸性の強い地下水にかん養され、その含有成分により下方の沼々は色が違ってきます。

登山コースは何れのコースも、山頂直下の弘法清水を經由で、この山の飲料に摘した水場はここのみであり、透水性の高い火山地は、雪溪や雨水が伏流し冷水が湧きだします。

山頂に至れば見事な景観が広がり、南は猪苗代湖、北は磐梯高原の湖沼群、その背後の吾妻、安達太良山、西はゴールドラインの先の、大きなカルデラを持つ猫魔火山と眺望が広がる。噴火後一世紀余を経て、植性は回復して居り、山腹にはダケカンバ、流れ山にはアカマツが（一部は植林）、湖岸にはハンノキ、ヤナギ、ヨシがそよぐ。

明治噴火の後も二度の大きな崩落があり、今でも少しずつ崩れています。

この為修復工事も日常的に成され、工事用林道も多数作られ修復工事の痕跡も目に付きます。

この様に磐梯山は、多数の温泉と登山、観光の主役として現在も宝の山なのである。

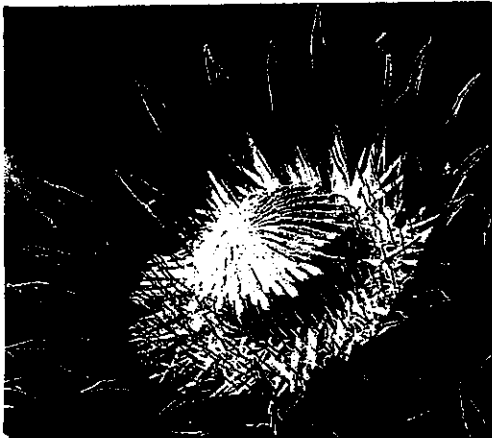
磐梯山は、変化する自然と、回復する自然、それらと人の関り方等を学ぶ事のできる山だ。

追記 学名 : 九枚笹 *Sasa senanensis* より長野県で シナノササ

内山恭子

千歳16:55発の香港行きに乗り、香港で乗り換え南アフリカ・ヨハネスブルグ着は翌日の14:10(日本時間)だった。待ち合わせ時間を含むので長時間の旅でした。一般的に日本から南アフリカのフライトは18時間です。南アフリカ共和国の国花キングプロテア(ヤマモガシ科)を見たくて行ってきました。

最近、いけばなやアレンジメントに使われる切り花の中に輸入物が非常に多いです。その中でもオーストラリア、ニュージーランド、南アからのプロテアの仲間は日本では栽培されていませんので最初に花屋さんで見た時は驚きでした。特にキングプロテアの花は花卉と間違えてしまうような鮮やかな紅色やピンクの総苞片に包まれています。それは直径約20~30センチもあり、両手のひらをいっぱい広げた大きさです。作品にすると豪華で迫力がありその存在感は大です。この花(*Protea cynaroides*)は南アのケープ地方に広く分布しています。高さ1~2メートルの低木で葉はうすい革質で最初からドライフラワーのようです。日本には秋を中心に入荷されます。



キングプロテア

この花に出会えたのは、ケープタウンにある南アで最大のカーステンボッシュ植物園でした。でも残念ながらこの時(8月末)は見頃を過ぎたかのような感じでした。しかし沢山あるプロテア属の植込みの中でもひととき目立って見事でした。プロテア属は南ア地方を中心に100種以上分布し、園内には多くの種類が植えられているのですが広くて見切れませんでした。それがケープタウンから230キロのクランウィリアムの小さな教会のフラワーフェスティバルで一度にたくさん比較しながら見る事ができました。入り口には巨大なモニュメント風のアレンジメントがあり花はどれもこれもプロテアの仲間ということでした。中に入ると小さい花を沢山付けたもの、フワフワしたもの、色も形もユニークな花々で溢れていました。まさにプロテアの仲間の品評会のような感じでした。

驚いたことに全部付近の山（セダーバーグ山脈）から採取してきたとのこと
です。もちろんキングプロテアも燦然と中心に使ってありました。この仲間は1
3グループあるという説明でした。

またここはルイボスティの生産地であり、教会のチャリティバザー用とし
てルイボスティを販売していました。私達が競って沢山買うので地元の人達は
あきれた風でした。このセダーバーグだけに生育するルイボス（アスパラガス・
リネアリス）は松葉のような葉を持つ植物です。この葉を乾燥、醗酵させたも
のがルイボスティです。部屋の半分をルイボスティの展示にさいっていました。
古来より原住民の間で受け継がれてきたお茶ということです。宿泊したホテル
やコテージでも毎食時コーヒーや紅茶のようにでできました。

ケープタウンからクランウィリアムへの途中は美瑛に似た風景が続きました。
ブドウ畑、菜の花畑、オレンジやタマネギ畑、オレンジ色や白色のデージの荒
野。そんな風景を楽しんでいると突然現われるのは巨大なスプリンクラーや風
車を利用して水を汲む井戸です。日本とは違う水事情がうかがい知ることがで
きます。（ケープタウンの8月降水量は81mm）。

乾燥した森林植生のプロテアの仲間ですが最近日本でも栽培が試験的に静岡
県でワラタという種が生産され始められたそうです。そのうち日本産のプロテ
アも市場に並ぶのかもしれませんが気持は複雑です。



風車を利用した井戸

野幌森林公園の秋

札幌市厚別区 佐々木 幸 夫

10月に入っての3連休の中日、暖かい日差しのなか森林の秋の兆しを満喫するため、自宅から百年記念塔近くの瑞穂連絡線から大沢口を經由し、ふれあいコースを辿る自宅までの約5キロメートルを散策する。

今の時季は、花より紅葉（黄葉を含む）や果実が、観察の主体になる。以下、その紅葉・果実・花に触れてみよう。

〔紅葉（黄葉も含む）〕

黄葉は日最低気温8度C以下から始まるという。意外と暖かいので森林の紅葉もいまいちの感じだが、周囲の緑がしっかりしているので、色の変化が印象的だ。

変化しているものに木本では、ハルニレ・ヤチダモ・ツリバナ・ナナカマド・エゾヤマザクラ・エゾヤマハギ・キハダ・ニガキ・シナノキ・ツタウルシ・ヤマブドウ・オオカメノキ・タラノキ・シラカンバ・ヤマグワ・サルナシ・ミズキ・ヌルデなど、草本ではミゾソバ・オオアワダチソウ・オトコヨモギ・メマツヨイグサなどであった。

〔果実〕

果実で目についたものでは、木本でツリバナ・ホウノキ・アサダ・サワフタギ・オニツルウメモドキ、草本はアケボノソウ・マイヅルソウ・ノブキ・ケチヂミザサ・ホウチャクソウ・キンミズヒキ・ゲンノショウコなどである。とくに、サワフタギのりり色の実は、例年にないほど稔っていた。

〔花〕

今の時季は、花は数少ないと予想していたが、季節はずれの花が見られその様が微笑ましく感じたのは、私だけでないだろう。

ブタナ・シロツメクサ・エゾゴマナ・キツネノボタン・ヒメジオン・エゾトリカブト・エゾノコンギク・ユウゼンキク・ネバリノギク・セイダカアワダチソウ・メマツヨイグサ・アカツメクサ・ゲンノショウコ・ノラニンジン・フランスギク・アキノキリンソウと実に16種も見れたことは、予想外であった。

いずれにしても、さしたる時間ではないが、癒しの貴重な一時を森林から得たことは、事実でありあらためて、森林に感謝の念をいただいた。

事務局だより

◆次年度の活動計画

今年度の活動も半ばを過ぎましたが、次年度の活動計画を立案していく時期になってきました。特に、次年度は当会設立20周年の年にもあたります。そこで、記念行事も含め、次年度の観察会の計画を会員の皆さんから募集いたします。各地での行事開催についてのプランをお寄せください。

連絡先 研修部長小林 (TEL0123-36-3944) 事務局田村 (TEL011-791-0127)

◆ボランティア活動保険

全会員、ボランティア保険に加入しています。本会の会則に沿ったボランティア活動で（ボランティア活動中の事故によるケガ、ボランティア活動中の事故により他人にケガをさせた場合）事故に遭った場合、事務局へご連絡ください。

◆11月以降の観察会予定

- ・11月 3日（木） 晩秋の森観察会 野幌森林公園ゆいぽろ遊園地 10:00~
- ・11月23日（水） 西岡水源地観察会 管理事務所前集合 10:00~
- ・12月 4日（日） 12月の森の観察会 野幌森林公園ゆいぽろ遊園地 10:00~
- ・1月15日（日） 円山登山観察会 円山登山口 10:00~
- ・2月 5日（日） 藻岩山登山観察会 慈恵会登山口 10:00~ 弁当持参
- ・3月26日（日） 野幌の春を探そう 野幌森林公園ゆいぽろ遊園地 10:00~

小樽支部の活動、自然体験塾（会員 猪師氏の主宰）については次にお問い合わせください。小樽支部（北原TEL0134-27-1701） 自然体験塾（猪師TEL011-682-0874）

お詫びと訂正

2005. 6. 23 発行 エゾマツNo.73 2ページ 川端会長の巻頭言に間違いの文字がありました。文中13行目に…「似ているアカシアの略称、偽アカシア」…がありますが、…「似ているアカシアの略称、似せアカシア」…に訂正いたします。文字の打ち間違えでした。お詫と訂正をいたします。

編集後記

- ・会員の熊野美子さんに風韻あふれる「東大演習林の森林資料館」のスケッチをいただきました。
- ・前号73号、印刷が不鮮明であったり、誤字があったりして申し訳なく思います。今後は気をつけていきます。
- ・富良野の南部栄一さんがついに「日本百名山」の登頂に成功しました。おめでとうございます。山頂での笑顔とてもすてきです。最後に踏破したのは南アルプスの名峰「赤石岳」です。体力、技術とも最も難度が高く2泊3日もかかる登山のようです。なお、南部さんからは「森林の100不思議」「登山の医学ハンドブック」など11冊、「日本の自然」「どこでもパノラマ」などのDVDが寄贈されました。事務局に保管してもらいますので利用してください。
- ・7月から8月にかけて2回にわたる「東大演習林」観察会、大麓山登山などが行われました。参加された会員のみなさんも自然の原始の姿、森林の育成や管理の仕方など学ぶことが多かったと思います。私たちのサークルとしても画期的な観察会となりました。お世話をしてくれた宮田和恵さんから観察会全体の様子について、力のこもった総括的文をいただきました。指導してくれた東大演習林のみなさんにはとてもお世話になりました。感謝申し上げます。
- ・次号の発行は2006年1月下旬の予定です。原稿は1月15日まで広報部の佐藤清一まで送ってください。皆さんの原稿を待っています。

第74号 秋期号

発行日 2005年10月28日

会長 川端 功治